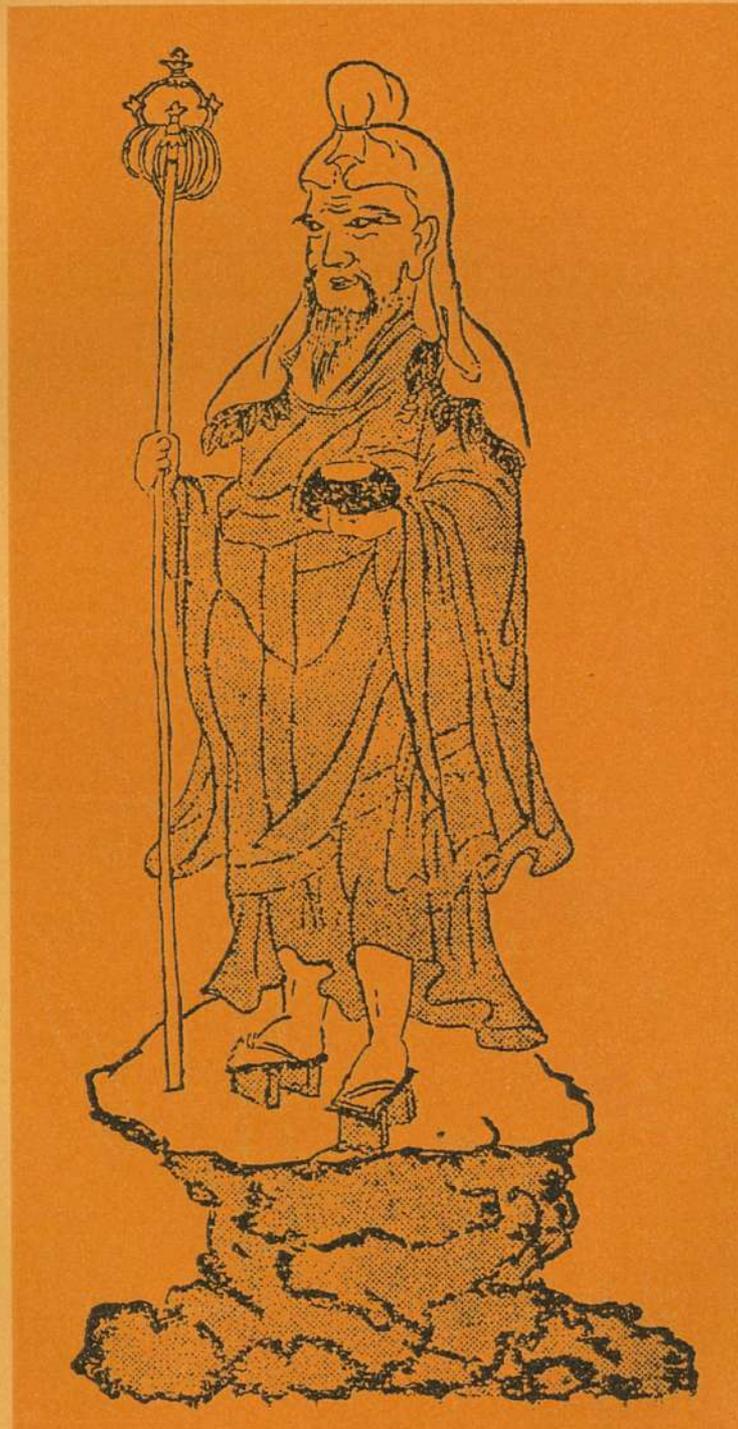


あしなか

第参百参拾参辑 山村民俗の会

熊野信仰特集・その1



表紙

◆表紙は、江戸後期の修験道解説書、行智著『木葉衣』（天保三年刊）に記された山伏祖師「役行者」の尊像図である。

◆『木葉衣』は、『鈴懸衣』、『踏雲録事』の二書と共に修験道入門書として知られてきたが、この行者像は山伏祖師としての姿がわかりよく描かれているといえよう。

◆抑々、山伏の衣の異称として書名にまなつた「木葉衣」とは、一体どのようなものだったのか。それは、かき集められた木の葉を繋ぎ合わせ、箕状に持たえて用いられたものではないか。そして、鈴懸（麻の衣）などの上に重ね着して岩屋の滴をふせいだり、冬場の防寒具として温もりを得たりしたものであろうと推定される。

◆とはいえ、実物が残されていないため、想像の域を出なかつたが、五十年ほど前、明治十七年に熊野那智の大滝から身を投げ亡くなった捨身行者・実利という山伏の肖像画に、「木葉衣」らしきものが描かれていたことがわかつたのである。

◆今回、表紙絵に取り上げた「役行者」尊像をよく見てみると、行者が頭に被る兜巾（長頭巾とも）の下側に、何やら木葉状のものが僅かにのぞかれ、法衣の上に重ね着された様子がうかがえる。絵柄がわかりずらく、見間違いかもしいれないが、実利行者のものと同様な「木葉衣」だとすると、注目すべき実例ということになる。

（編集室・岡）

あしなかな
第百参拾参輯

〈熊野信仰特集〉その1／目次

令和7年10月刊

〈表紙解説〉行智著『木葉衣』所載の「役行者尊像」図……………編集室

十津川の三浦峠とヒダル神〈前編〉……………山田隆夫 1

—昭和四十九年、旧「熊野街道」採訪記—

山田隆夫先生の民俗学〈前編〉……………浦西勉 6

—「十津川の三浦峠とヒダル神」の頃—

北陸の熊野信仰……………石森長博 10

宇佐美「熊野三社」の経済基盤……………岡倉捷郎 17

—伊豆東岸・烏川中流域の寺院址と製鉄遺跡に見る—

会員異動 23

寄付御礼 23

寄贈刊行物 23

次号〈熊野信仰特集〉その2／予告ほか 23

年会費七千円（原則前納です）

会費振込みをお忘れなく

二〇二五（令和七）年十月刊 非売品

『あしなか』第参百参拾参輯 25 | 3

発行 山村民俗の会



編集 岡倉捷郎
印刷 (株)ヌーベル社

東京都千代田区神田神保町一―六四
電話 〇三(三三二九一)七〇〇一
乱丁、落丁の場合はお取り替えます